

平成 30 年度 東京都内湾水生生物調査 10 月稚魚調査 速報

●実施状況

平成 30 年 10 月 9 日に稚魚調査を実施した。天気は晴で、気温 23.6~28.6°C、調査地点の風は弱く、海は静穏であった。調査当日は大潮で、干潮が 10 時 59 分、満潮が 16 時 59 分であった(東京都港湾局のデータ)。

8 月調査時に比べ、ヒイラギ、シロギス、マゴチ等は、体長が大きくなり、個体数は少なくなっていた。これらの多くは、成長に伴い深所へ移動したものと考えられる。

2018/10/9	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
作業時刻	10:17-11:14	9:02-9:52	12:04-13:40
水温(°C)	23.8	22.7	23.4
塩分(−)	15.0	21.8	6.8
透視度(cm)	78	84	45
DO(mg/L)	5.6	4.9	7.2
DO飽和度(%)	72.0	64.8	88.4
波浪(m)	0.1	0.1	0.1
pH(−)	7.3	7.6	7.5
水の臭気	下水臭(弱)	無臭	無臭
備考	下げ潮時から最干時に調査を行った。 曳網中、アカエイが 4 個体確認された。	下げ潮時に調査を行った。 水の透明度は高く、汀線付近の礫上にはアオノリ類が生育していた。	上げ潮時に調査を行った。 干潟上では、ウミネコやカワウが休息していた。

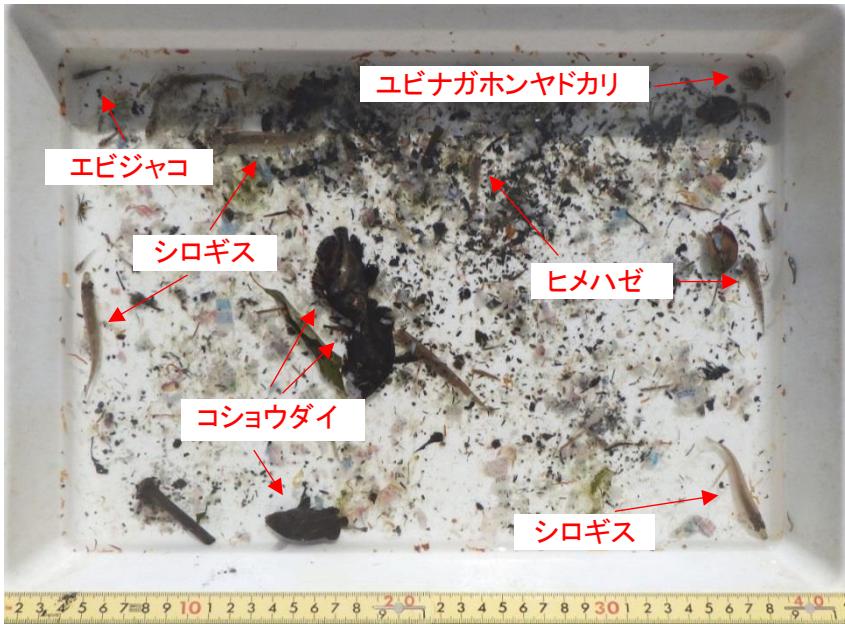
●主な出現種等（速報のため、種名などは未確定）

主な出現種等	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
魚種 (多い順 ^注)	ヒメハゼ(+)	ヒメハゼ(+)	ヒイラギ(c)
	コショウダイ(r)	ウグイ属(r)	マゴチ(r)
	シロギス(r)	シロギス(r)	エドハゼ(r)
	マゴチ(r)	クサフグ(r)	
魚類以外	アサリ(+) エビジャコ(+)	ユビナガホンヤドカリ(r) ホトキスガイ(r)	ニホンイサザアミ(G) アキアミ(c)
備考	他にアラムシロガイ、シオフキ、ユビナガホンヤドカリが採取された。	他にエビジャコ属が採取された。	他にアサリ、ユビナガスジエビ、ガザミ等が採取された。

注) 表中の () 内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

城南大橋 採取試料



調査の様子

城南大橋西詰めにある干潟。北側には東京港野鳥公園がある。

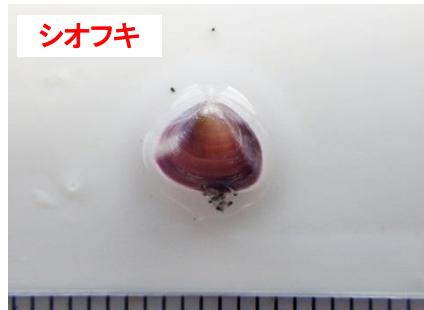
●主な出現種等

※写真のスケール 1 目盛:1mm



内湾や河口域の水深 30m 以浅の砂泥底に生息する。産卵期は 4~7 月で、採取された個体は今年生まれたもの。前回調査で採取された個体は 1~3cm 程であった。成長するにつれて、徐々に深場へと移動する。

湾奥から外湾にかけての干潟域などの浅所で、夏から秋に体長 3~10cm 程の幼魚がみられる。尾鰭以外は褐色で、枯れ葉に擬態していると考えられる。成長に伴い体色が変化し、成魚は全体に黒色の斑紋が散らばったようになる。

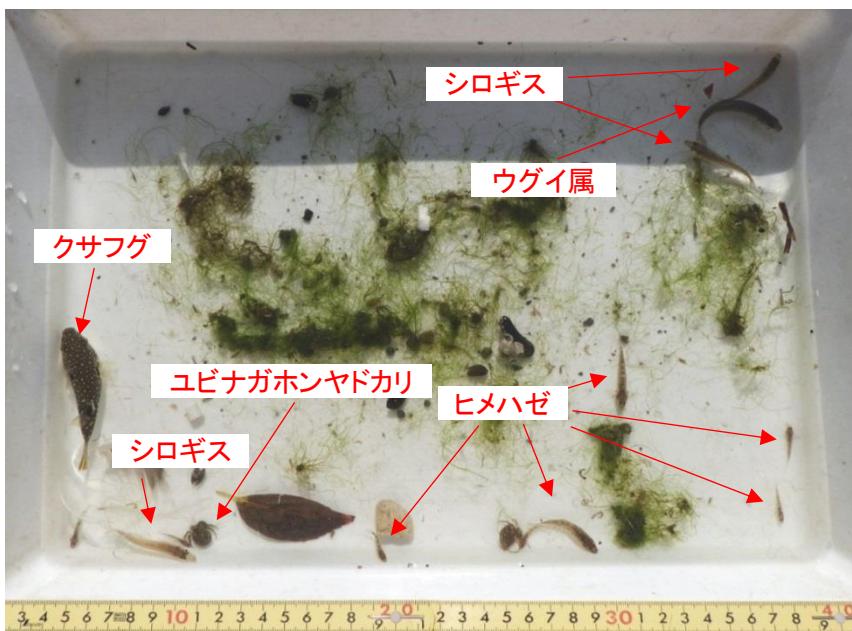


内湾の干潟域に生息する巻貝である。死んだ生物の肉を食べる(腐肉食性)ことから『海の掃除屋』などと呼ばれている。

内湾奥の干潟域等の砂泥底に生息する。殻の色は白色から紫褐色まで変異が大きい。採取されたものは稚貝。

潮干狩りなどで盛んに獲られている代表的な二枚貝。東京湾のものは形が細くて、模様のコントラストの強いものが多い。今回の調査では、稚貝が多く採取された。

お台場海浜公園 採取試料



●主な出現種等

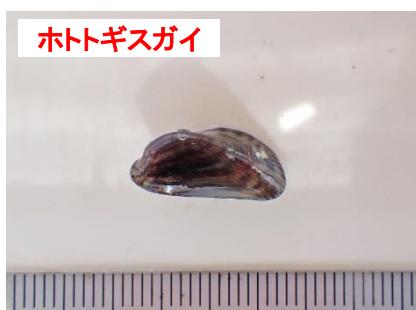
※写真のスケール 1 目盛:1mm



河口付近の干潟域では、4月下旬から5月上旬にかけて体長1~2cm程の稚魚が大量に出現する。干潟域には梅雨時から秋までの期間、体長5~15cm程になるまで滞在する。

東京湾では、湾奥から外湾にかけての砂浜海岸などで多くみられる。稚魚は動物プランクトンやアミ類を食べて成長する。警戒心が強く、危険を感じると砂に潜る習性がある。産卵期は5~10月。

内湾の岩礁域や藻場、砂底域に生息する。東京湾全域から出現記録がある。初夏の大潮の夜に、波打ち際で集団で産卵する。



砂泥底に生息するムラサキガイの仲間。富栄養な海域では、互いに足糸(そくし)を絡ませて集団で泥の表面を覆い、マット状になることが多い。調査地点でも、ホトギスガイのマットが確認された。

東京湾の干潟では、普通にみられるヤドカリである。潮間帯から浅海域にかけて生息する。同じく、『海の掃除屋』としてアラムシロガイが紹介されており、見た目がほぼ同じ。この個体が利用しているのは、アラムシロガイの貝殻。

内湾の砂泥底に生息し、普段はごく浅く潜って隠れている。環境の変化に敏感に反応し、体色を変化させる。魚類の稚魚などを捕食することが知られている。

葛西人工渚(東なぎさ) 採取試料



東京湾奥にある広大な人工干潟。
一般の立ち入りが禁止されており、
野鳥の楽園となっている。

●主な出現種等

※写真のスケール 1 目盛:1mm

ヒイラギ



東京湾では、湾全域の干潟域や砂浜海岸、漁港などで普通にみられる。干潟域には、体長 6~7mm 程の稚魚が夏季に来遊し、動物プランクトンを食べながら成長する。

エドハゼ



湾奥の干潟域に生息し、アナジャコの巣穴がある砂泥地を好む傾向にある。アナジャコの巣穴を隠れ家として利用している。小型の甲殻類を食べる。環境省のレッドリストで絶滅危惧種II類に選定されている。

ガザミ



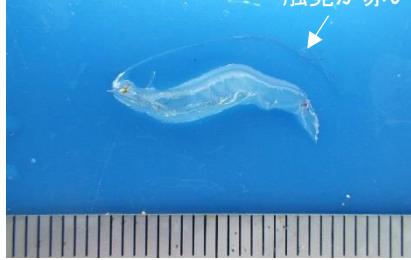
甲幅が 10cm 以上になる大型のカニ。内湾の浅海域に多く生息している。横長の甲らの左右に、横に長い棘がある。別名「ワタリガニ」と呼ばれる。

ユビナガスジエビ



内湾域の転石場や護岸に多く生息する。体長 4cm 程。河口に生息するスジエビの仲間とは、額角がほぼ水平で、先端の上面が下向きになることで見分けられる。

アキアミ



内湾に生息するサクラエビの仲間。体長は 4cm 程。触角が赤いことから、新潟県では「あかひげ」と呼ばれる。

ニホンイサザアミ



汽水域に生息するアミの仲間(エビの仲間ではない)。河口域で春に大量発生し、魚類等の餌として重要な資源である。